

2024.11.21

◆◇■◇■◇■◇◆◇■◇■◇■◇■◇■◆◇■◇■◇■◇◆◇■◇■◇■◇■◇

地域日本語支援ニュース こだま 第 449 号

ともに生きる

～地域で、日本で、そして世界で～

◆◇■◇■◇■◇◆◇■◇■◇■◇■◇■◆◇■◇■◇■◇◆◇■◇■◇■◇■◇

★—— メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます。——★

【地域日本語支援ニュース 「こだま」】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会（AJALT）発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

★—— 皆様からのご意見、ご感想をお待ちしています。——★

編集部： <https://www.ajalt.org/local/soudan/contact.html>

---

■ともに生きる：ミャンマーから日本へ■

ドアを開けると、そこはビルマ語（ミャンマー語）の世界。日ごろ日本の小学校に通うミャンマーの子供達たちも、この教室ではミャンマーの小学校のテキストを開き、先生たちもすべてビルマ語で通します。

教室代表のチョウチョウソーさんは 1991 年ミャンマーでの民主化活動への弾圧から逃れて来日し、7 年後に難民認定を得た後、奥様を呼び寄せて東京豊島区にミャンマー料理店をオープンしました。一方で、NHK 国際ラジオ放送でビルマ語アナウンサーも務めています。ご夫妻とも以前から教育に関心が高く、2014 年から店のすぐ近くに、主にミャンマー人難民などを対象とした日本語教室とミャンマーにルーツをもつ子供のための母語教室の 2 つを開いています。今回はそのうち、母語教室であるシュエガンゴビルマ語教室についてご執筆いただきました。

---

シュエガンゴビルマ語教室

～日本でくらすミャンマーの子供たちに母国のことばと文化を～

シュエガンゴの会 代表 チョウチョウソー

◆シュエガンゴは何だろう

「“シュエガンゴ”は何ですか、何のことですか」と私に聞いた日本人の知り

合いが沢山（たくさん）います。“シュエ”とはビルマ語で「ゴールド（gold）」のことです。私たちミャンマー人（ビルマ人）はゴールドが大好きで、大切な宝物、お金になりやすいものだと思っています。ですから、名前か名詞の前に“シュエ”を付けることがよくあります。“ガンゴ”はミャンマーの人が大好きな花の名前です。毎年1月から4月にかけて咲く花ですが、女性たちは髪（かみ）に付けたり、ガラスポットに入れてリビングルームの飾りにするなどさまざまな方法で使っています。ミャンマー人の子供たちに母語であるビルマ語を教えようと私と妻が考えたとき、教室の名前は“シュエガンゴ”に決めました。

#### ◆シュエガンゴビルマ語教室

妻はミャンマーで元々教師でしたが、来日時（1999年）から日本にいる子供たちにビルマ語を教えたいという夢がありました。その夢を2014年に実現することができました。私の収入からできる部分を使って豊島区、高田三丁目にある小さな部屋を借りてシュエガンゴビルマ語教室を始めました。ビルマ語には基本の文字が全部で33個ありますが、それをミャンマー国内で使われている教科書で子供たちに教えています。そのほか教材は先生たちのさまざまなアイデアで100円ショップや文房具屋（ぶんぼうぐや）で買って使っています。

#### ◆シュエガンゴの会

妻と私がシュエガンゴビルマ語教室を始めて2年後の2016年、ミャンマーにアウンサンスーチー氏が率いるNLD（国民民主連盟（こくみんみんしゅれんめい））の政権が誕生しました。それで、その年私は25年ぶりに一時帰国することができました。私たちが日本にいない時、ビルマ語教室は休室になっていましたが、個人活動ではなく団体活動ならば教室は休まないで子供たちに続けて教えられます。それでミャンマーのことに興味がある知り合いの日本人たちに声をかけ、その後シュエガンゴの会を設立しました。年会費は5,000円です。現在メンバーは20人以上います。2カ月に1回シュエガンゴの会の理事会を開いています。シュエガンゴの会はボランティアの先生たちに交通費として1回2,000円払っています。学費は子供1人1カ月2,000円、兄弟の場合は3,000円となります。財政難（ざいせいなん）ではありますが、シュエガンゴの会はそれを克服（こくふく）してきました。

#### ◆子供たちの活動

シュエガンゴの会はミャンマー人の子供たちに母語を教え、ミャンマーの文化や伝統を子供たちに知ってもらうために活動しています。また、日本とミ

ャンマーの文化交流などを目指しています。ですから、ミャンマールーツの子供たちにビルマ語だけではなくて、伝統と文化を体験してもらう機会も提供しています。例えば、4月にミャンマーのお正月、10月に提灯祭り（ちょうちんまつり）などいくつかイベントが開催されます。その時、ミャンマーの食べ物を子供たちもいっしょに作って体験してもらいます。

教室内だけで勉強しているではありません。近くの公園でミャンマーの伝統的な遊びを子供たちに教えています。

新しく参加した子供には最初から勉強を教えるのではなく、まずは先生たちが子供の話をよくききます。そうすることで信頼関係ができて、子供はビルマ語に関心を持っていきます。また、同じ背景の子供たちがいることで、ここが居場所になっていきます。

#### ◆シュエガンゴの先生たち

ビルマ語教室を始めた時、知り合いのミャンマー人たちに声をかけたら、興味をもった2人が、ボランティアとして毎週土曜日に教えに来てくれました。生活のために働きながらボランティアとして子供たちに教えるのは大変だと思いますが、とてもお世話になっています。

「今月は2回だけ」

「これから土曜日に仕事あるですから1カ月1回だけ来られる」

「新しいアルバイトですから土曜日に来るのは難しい」

など、さまざまな状況の中でもシュエガンゴビルマ語教室が続けられるようにがんばっています。ボランティアの先生を探すのは簡単ではありませんが、現在、ミャンマー人ボランティアの先生3人とビルマ語ができる日本人1人が、来られる日に交替（こうたい）で教えています。

#### ◆教室内の環境

シュエガンゴビルマ語教室は子供たちに毎週土曜日午後2時から4時まで教えてきましたが、2024年から子供の人数は12人まで増加しました。それで今はクラスを12時から1時半までと2時から4時まで2回に分けています。

7歳から11歳までは早い時間に来て、6歳以下の子供たちは遅い時間に来ています。教室で子供たちが楽しく勉強できるように環境を作らなければなりません。勉強と遊び、勉強と体を動かす、勉強と体験などをバランスよくとれるようにしています。休憩時間はお菓子を食べたりジュースを飲んだりしますので、子供たちには一番楽しい時間です。

#### ◆ミャンマーの現状

ご存知ですか。2021 年 2 月にミャンマーでクーデターがおきました。国軍とそれに抵抗する少数民族の武装勢力、クーデター後設立された若い人達の“国民防衛隊（こくみんぼうえいたい）”の間で戦いが激しくなりました。避難民や難民は 300 万人ぐらいいます。2024 年 4 月に軍事政権が始めた徴兵制度から逃れようと、若い人達はできるだけ国内を移動したり、海外に行ったりしています。また戦いが長くなってきたので国民の不安はだんだん大きくなっています。さらに今年 8 月には台風 11 号の影響で大雨になって洪水被害が広がっています。安定しない状況なので、日本の企業を含めて国際社会の企業が投資を撤退（てったい）するだけではなくて、国内企業もタイやシンガポールに投資するところが少しずつ増えています。それはミャンマー国内で雇用状況が悪化することです。しかし軍事政権は、ミャンマーの経済は厳しい状況の中でも発展できると言っています。

#### ◆母語教育は重要

在日ミャンマー人は今年 10 万人を越えました。留学生と技能実習生たちが多いですが、その中で結婚して定住する人が増えています。もちろん子供たちの人数も増えています。その状況の中で母語授業を続けることが、これまで以上に重要だと思います。

最後に、さまざまなルーツをもつ子供たちが自分の母語をきちんと使えるよう、日本政府もサポートしていただければうれしいです。この子供たちは日本に住んで、日本人といっしょに学び、働き、これからの日本社会を作っていきます。日本と自分の国、二つの文化がわかる子供たちはきっと日本の宝物になります。そのためにも母語の教育は大切なことをみなさんに理解していただきたいと思います。

シュエガンゴの会ホームページ

<https://shwegangaw.wordpress.com/>

シュエガンゴの会 Facebook

<https://www.facebook.com/profile.php?id=100064689936994>

---